

平成 30 年 6 月月例会 開催報告

今月にご就任間もない地域文化課長・濱田良光氏と生涯学習センター所長・平野昌暁氏をお迎えし、研修を兼ねた講演会を開催しました。福田代表の挨拶の後、お話を伺いました。

1. 足立区の生涯学習に関する 30 年度施策・・・足立区地域文化課長 濱田良光氏

本日は生涯学習という視点から、足立区がどのようなことをしているのか、どんなことを目指しているのか話をしたい。NPO を設立し 15 年に渡り、またはそれ以前から活躍されている皆様方がどのようにして新たに自分の時間を創っていくか、自分の人生だけでなく、地域の中でどう生きていくか、それを支援するのが「地域文化課」の仕事だと思っている。

足立区のメインテーマのキーワードは 100 年である。40 年間働き、リタイアして 100 才までの 40 年間どう生きるか、どうゆう生きがいを持つか、生きるためには文化が必要であり、新たな発見があり生きていく実感が必要である、そこから文化が生まれる、生きる意欲も生まれてくる。なぜ「楽学の会」が発展してきたか、学びがあり、発見があり、感動がある、それだけでなく創る喜びがあり、学びを創ることに活動の意義を感じている。

足立区のイメージを変えていきたい、ボトルネック的課題の解決に力を注ぐ、エリアデザインは従来の 13 ブロックを 7 つのエリアに分割し、エリア毎に中期的にデザインし予算化していく。足立区の人口も 68 万人を超え、若者も増加している、その若者達に住んでいて良かったと言われるようにしたい、先輩達がくたびれた姿を見せないで、生き活きとして学び続けなければいけない、そうでないと次の世代に繋がらない、そのために「楽学の会」、「地域文化課」が命を注ぎ込むよう頑張らなければいけない。

「16 のはなし」(4×4=16) はひと・くらし・まち・行財政の関わりを説明したものであり、これからどうあるべきか示したものです。足立区で暮らしていて良かったと思う街を創る。これからも、心の元気、体の元気、知恵を集めて活躍されることを願います。そのために「楽しみ」を見つけて欲しい。

以上ですが、沢山の貴重な興味深いお話を伺いましたが紙面の都合上一部だけの報告になっています。「楽学の会」の存在価値を改めて認識し、励ましのお言葉をいただいた講演でした。

2. 生涯学習センター事業について・・・生涯学習センター所長 平野昌暁氏

平成 30 年度の生涯学習センター講座情報についてご紹介を頂きました。

【日本の復習シリーズ】

妖怪ランドをめぐる(7月) 民俗学、自然界、江戸時代の文化の話
民謡 園芸文化 日本手ぬぐい 江戸組子細工、以上予定

【大学連携事業】

東京未来大学共催事業公開講座(産官学連携担当係)本年度 6 本予定

出産子育てシミュレーション(4月)

徳川 260 年の安定と平和から学ぶ(5月)

シマの祈り 沖縄～(6月) シナリオでモヤモヤ解消(7月)、11月、12月に実施予定

【地域・生活課題】

①セルフメディケーション税制⇒昨年より ②防災(水害)について⇒災害対策課と協議中

3. 新しく就任されました地域文化課係長 関口勝一氏と今年度もお世話になります三ヶ島誠次男氏よりご挨拶をいただきました。

終了後は地域文化課の方にもご参加頂き懇親会を開催し、ざっくばらんな会話で盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。最後に濱田課長から「昨年度も多くの区民に学びの場を提供してもらい感謝しています」とのお言葉を頂戴し「三三七拍子」でお開きと致しました。

(月例会参加者 21 名)

(ボランティア活動推進部 篠原英也)



「足立の環境」シリーズ講座 川ゴミから海洋汚染問題を知る

「足立の環境」シリーズ第 1 弾として、川ゴミと海洋汚染問題の専門家の方にお話頂きます。

また荒川から見えてくる投棄ごみの現状と環境保護・保全について具体的な実践方法から学びます。

足立区からはごみ環境問題の実態と課題を示して頂き、その取り組み方について区民の方たちと共に考え環境改善の方法を見つける一歩と致します。



開催日時：毎回（木曜日）1・2 回 午後 6 時 30 分～8 時半 3 回目 現地学習 午後 1 時 30 分～4 時半

月・日	講義内容	講師
1 回目 8 月 23 日	足立区の環境の実態と課題 ～廃棄ごみを少なくする取り組み～ 環境保護活動実践報告 ～一人ひとりが実践できる環境保護・保全についての具体的な実践方法をクリーンエイドから学ぶ～	足立区環境部ごみ減量 推進課長 太田照生 氏 NPO 法人荒川クリーン エイド・フォーラム 事務局員 五十嵐実 氏
2 回目 8 月 30 日	川ゴミから海への海洋汚染問題 ～東京のポイ捨てごみが 太平洋の海ごみになっている～	東海大学 海洋学部博物館 学芸員・係長 伊藤芳英 氏 (足立区出身)
3 回目 9 月 6 日 (現地学習)	「現地学習」船上セミナーとアモア見学 ～荒川から見る水辺・荒川の歩みを迎える～	国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 (東部鉄道伊勢崎線・小菅駅) 集合

没後 160 年 歌川広重と足立

浮世絵「東海道五拾三次」の広重は、今年没後 160 年を迎えます。お墓のある足立区伊興の東岳寺では命日の 9 月 6 日に法要と「一日だけの広重展」が開催されます。

更に 9 月 4 日～10 月 8 日に区立郷土博物館では浮世絵展「没後 160 年 広重目線」が開催されます。

晩年の代表作「名所江戸百景」には足立区の地名が入った作品が 3 点(「千住の大はし」「真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図」「綾瀬川鐘か淵」)もあります。

長年「一日だけの広重展」を開催されてきた稲垣進一氏の講義と東岳寺の法要・墓参・「一日だけの広重展」・博物館の収蔵浮世絵展「没後 160 年 広重目線」を巡り、広重と足立との関係を探ります。



名所江戸百景 千住の大はし

回	月日・時間	講義内容	講師
1	8 月 30 日 (木) 午後 2 時～4 時	「没後 160 年 足立の広重、世界の HIROSHIGE」	稲垣進一氏 (国際浮世絵学会 常任理事)
2	9 月 6 日 (木) 午後 1 時～3 時	広重忌 (法要・墓参・一日だけの広重展) 伊興寺町散策 (伊興地区現地学習)	博物館学芸員 薮照夫氏 (足立史談会)
3	9 月 13 日 (木) 午後 2 時～4 時	「没後 160 年 広重目線」の見所 (足立区立郷土博物館現地学習)	博物館学芸員

絵巻物を読み解く『平家物語絵巻』



5月13日・20日・27日(各日曜日)研修室4。講師に歴史研究家：専門・日本中世史、江東区地域振興部文化観光課・文化財専門員、法政大学研究員 大関直人氏を迎えて行われた。応募者53名(抽選で41名)受講者36名 延人数95名。男性15名・女性21名。

第1回目 中世の絵巻物について～絵巻物とは何か、中世に多く作成された理由～

初めに史料とは、史学研究となる材料を総称して史料という。史料には、一等史料から五等史料などあり、等外史料は参考資料となる。

そして、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、四代絵巻と称される『源氏物語絵巻』『伴大納言絵詞』『信貴山縁起』『鳥獣人物戯画』が作成され絵巻物の全盛期といわれた。近年、絵画史料として、「絵巻物」が注目されている。「絵巻物」には「絵」と「詞書」があることに特徴があり「絵」という視覚的(ビジュアル)資料から、文字記録ではイメージできない廁(トイレ)が描かれているなど、その他、貴族の服装・武家の家屋・病や信仰など当時の世相の様子が伺える。私達の持っている「絵巻物」のイメージがもっと深い意味があることが分かった。

第2回目 『平家物語』『平家物語絵巻』の背景～平氏政権から治承・寿永の内乱期～

『平家物語』は平家一門の興隆と滅亡が描かれ、語り本系の諸本、読むために書き写された諸本とに分けられる。そして、パワーポイント使用で平家納経・祇王・鹿谷・入道死去・倶利伽羅落、木曾最期、敦盛最期、那須与一、壇ノ浦の合戦、先帝身投げなど、背景としての治承・寿永の乱が語られた。多くの関連資料が提示され平家一門の政治権力に対して地方の武士団が反平氏勢力となり、内乱の全国化となった。源平の対立、そして、壇の浦での平家滅亡となった。講義は多岐にわたり、史料としての後鳥羽天皇の摂政・関白であった九条兼実の「玉葉」、藤原定家の「明月記」などが紹介された。

第3回目 『平家物語絵巻』について～中世諸史料との対比から見る「虚構と史実」～

平安時代後期の武将木曾義仲は、平安末期、源平争乱の最中征夷大將軍に任じられたが、関東軍との戦いに敗れた。実際、九条兼実の「玉葉」には伝聞として載せている。『絵巻』には義仲の戦いは法住寺合戦として描かれている。絵巻にあらわされている事象については、時空を超えてストーリーとしては有益であるが、そのように、史実と虚構とは絵巻のなかの「坂落とし」一の谷などのように、現在どこの場所が特定されていないものもある。史料として、「絵巻物」は分かり易いが現代の感覚で見ないこと。平安時代や江戸時代などその時代の人間として見ると史(資)料が活きてくる。講義は講師の研究・資料が豊富で、3回ともに史料・資料を駆使して、読み解き様々な中世の絵巻物や時代背景を語る学識と熱意に基づいた内容の濃い講義であった。アンケートにも多くの方から講師への賛辞と今後も継続してほしいという声が寄せられた。

(今野君江)

千住宿ガイドブック出版記念式典・講演会への参加報告

平成30年5月29日(火)「NPO法人千住文化普及会」主催で、生涯学習センター及びレストランさくらに於いて式典・講演会、祝賀パーティが開催された。当会へもご案内を頂き、講座でも繋がりのある田中が代表の代理として出席した。

第一部の式典では主催者 櫛原文夫理事長の挨拶、郷土博物館館長 網野孔介氏、観光交流会協会課長 齋藤ルリ子氏、足立史談会会長 堀川和夫氏の祝辞、続いて来賓の紹介があり、主催者より千住宿ガイドブック出版の経緯と内容を丁寧に説明頂いた。

第二部 講演会では、渋沢資料館副館長 桑原功一氏より「千住宿の機能と性格～「江戸との関わりから考える～」をテーマにお話し頂き、お江戸の入り口・千住宿の新たな魅力を感じた。

第三部 祝賀会でも、千住宿をキーワードに懐かしい人々との交流が出来、「楽学の会」の紹介もできて大変有意義な式典であった。

(田中国弘)



千住のタカラ湯店主が語る「銭湯の変遷」



6 月 5・12・19 日（毎週火曜日）午後 2 時～4 時（第 3 回は午後 1 時～2 時半）に開催された。応募者は 20 名、受講者は第 1 回 20 名、第 2 回 18 名、第 3 回 17 名、延べ 55 名であった。

講師はタカラ湯店主であだち銭湯文化普及会の松本康一氏。

第 1 回は「昭和初期からの銭湯の変遷～銭湯の歴史、役割、そして文化～」と題して、800 年程前からの寺社の禊(みそぎ)など、日本は古くから水を浴びる習慣があり、入浴の習慣は江戸の町づくりの中で土埃や汗を落とす必要からお風呂屋が普及し、江戸時代には 600 軒・明治には 1200 軒の銭湯ができたといわれ、東京における銭湯の発達の様子が紹介された。

第 2 回は「銭湯建築の特徴～宮作り、タイル、カラン、格天井、番台、坪庭、浴槽、煙突、背景画～」と題して、銭湯建築や設備の特徴が写真を示しながら説明された。最後に店主の先代の父親が書き残した昭和 19 年から 20 年の日記が紹介され、戦時下における水や燃料の不足による困難な中で、数々の工夫を凝らして営業を継続された状況や、B29 の空襲を受けて営業不能になったが 10 日たらずで再開したことなどが紹介された。

第 3 回は「タカラ湯における現地学習・入浴体験～防災協力井戸、煙突屋、釜屋、穴蔵屋等～」と題して、タカラ湯の各施設や仕事の状況を実際に見学して、前 2 回の講義内容を実際に目にすることができ、大いに興味を引いた。現在は都市ガスが燃料となっており、従来主な燃料であった解体業者から提供された廃材置き場のがらんとした広いスペースが印象的であった。希望者は開店前に入浴体験もサービスされた。



講師は大学の先生のような流暢な講義ではないが、幼い時から銭湯に育ち、現在も様々な困難を乗り越えて銭湯経営を継続している実践者で説得力があった。

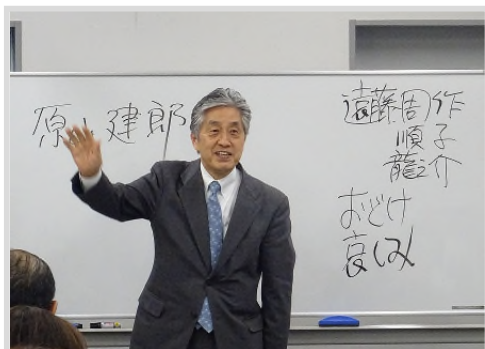
参加者のアンケートには次の様な意見が寄せられた。

「銭湯の歴史、建築の特徴、最終回は現地学習と充実したプログラムであった。」「足立区の誇る銭湯という文化は、もっと学び&楽しみ&盛り上げる価値のあるものだと思います。」「子供の頃入っていたが、近くの銭湯がなくなったので、興味があったので参加しました。」など、懐かしい思い出で参加された方が多かった。最終日の 2 日前には大阪で大きな地震があり、銭湯の利用者が増えたとの話もあり、今後とも文化的な側面と災害時などの公衆衛生的な銭湯の意義について考えさせられる講座であった。

（糸井史郎）



「狐狸庵先生」遠藤周作ワールドを愉しむ



6月7・14・21（毎週木曜日）午後2時～4時 応募者32名、受講者29名、延べ79名での講座でした。講師は、日本文藝家協会々員・元主婦の友社 遠藤周作番記者・「遠藤ボランティアグループ」代表の原山建郎氏が務めてくださいました。各回の講義では、遠藤周作執筆の本をたくさん持参されて回覧しながらお話されました。遠藤周作の番記者であったからこそ語れる事、番記者でなければ見聞きできなかった事を織り交ぜながらの遠藤周作ワールドは、盛り沢山で充実の時間が流れました。

第1回目は、狐狸庵先生の「おどけ」と「哀しみ」～ぐうたら人間学 狐狸庵閑話・おバカさん～と題しての講義でした。前半は、「おどけ」 含羞（はにかみ）、遊びごころ、芝居つけ、創作的自虐というタイトルでのお話でした。「こりゃあ、あかんわ」「狐狸庵センセイの悪戯（いたづら）」などのキーワードで様々な本からの引用文を基にありありと語っていただきました。会場には笑いや驚き、意外などの声が出ていました。後半は、「哀しみ」 クロ（心の友）両親の離婚、哀しみに寄り添うキリストというタイトルでのお話でした。「おもろうて、やがて悲しき」「人々の苦しみや哀しみに寄り添う存在」などのキーワードで引用文を基にした解説でしたが、講師の脚色が随所に入りあれよあれよという間に遠藤周作の世界に引き込まれていました。

第2回目は、永遠のマリア観音、終生の伴走者～最愛の母・郁、遠藤順子著『夫の宿題』～と題しての講義でした。序章は、「遠藤周作物語」その出生から帰天まで73年の人生と題し、幕開けから第5章（最終章）に分けて話されました。壮絶な人生に言葉が出ませんでした。そして前半の「母があなたを信じましたので」永遠のマリア観音・郁（最愛の母）というお話は、「おふくろにも兄貴にも逢った」「主よ、母があなたを信じましたので」というキーワードで解説されました。臨終の時のストーリーは胸が詰まりました。後半の『夫の宿題』、「夫婦は人生の同伴者」、終生の伴走者・順子夫人というお話は、「もういい加減にお父さんを許してあげたら・・・」「必ず蓮座をあけて待ち居り候」等のキーワードで、数冊の引用文を基に解説されました。



第3回目は、遠藤周作の病、心あたたかな医療～病院はチャペルである。遠藤周作の祈り～と題しての講義でした。前半は、遠藤さんが提唱した「心あたたかな医療」、友ちゃんのガンというタイトルで、「年明けに帰ってきた友ちゃん、余命1ヶ月のガン」「讀賣新聞に連載エッセイ“患者からのささやかな願い”」「結成36年を迎えた、遠藤ボランティアグループ」などのキーワードで話されました。遠藤さんがマスコミに“あたたかな医療を！”と提唱して大きな影響を与えたことを知り、感動しました。



後半は、東大病院「入院案内」が変わった、病いを生きた遠藤周作の祈りという内容を「患者のプロ・遠藤さんが『入院案内』に注文を付けた」「全国の大学病院で『入院案内』の項目タイトル（目次）が変わった」などのキーワードで種々の本を基に解説されました。遠藤さんが「入院案内」の表現に注文を付けたからこそ、今の私たちは安心して入院生活を送ることができていることを知りました。

受講者は、“小説家の番記者をなさった方のお話を拝聴するのは初めての貴重な経験でした。遠藤周作の人となりや、また編集者という職業も垣間見ることができ作品への理解も深まると思いました。改めて読み返してみたいと思います。”などの声を寄せて下さいました。大変感動的で貴重な学びの講座でした。

（佐々木善光）

足立区 未来クラブ・オープン・フォーラム ～ これからの豊かさって、何だろう？ ～

最近、公共機関から発信されるネットや紙面などに度々登場する“協創”の文字。そんな折、会員のひとりから転送されてきた「未来クラブ・オープン・フォーラム」のブログを開いてみた。

更に、申込書にあった「あなたが考える100年後に残したいコト・モノは何ですか？」の問いに興味を惹かれ、久しぶりの東京芸術センターに足を運んでみた。講師として登壇された、石田秀輝氏（東北大学名誉教授）は、自然のすごさを賢く活かすあたら



しいものづくり『ネイチャー・テクノロジー』を提唱され、2014年から奄美群島沖永良部島へ移住。多岐に亘る研究成果から、生物多様性などを題材に広く深く解説がなされた。さらなるデータは、驚くようなスピードで絶滅していく生物や動物を検証しながら、地球上の生態系が限りなく破壊に向かっていることを示していた。

後半は「これからの豊かさって、何だろう？」をテーマにオープン・ディスカッションへと進み、パネリストには高校生も含み、カザフスタンからの留学生、音楽アーティスト、デザイナー、足立区のものづくり分野からの多様なエキスパートの皆様により、“ひとつの地球を大切にしながら、私たちはどんな豊かさを求めていくべきなのか”のヒントを、さまざまな視点から提案があった。

そして、偶然、隣り合わせた顔見知りの課長さんと交わした会話は「市民ベースの協創は、大分スピード感がありますね」、「提唱者の行政側も後れを取らず頑張ってください・・・」。日々「楽学の会」の活動に参加されている皆様、チョットだけ外を覗いてみませんか。

（早坂津夜子）

当会顧問、崎山みゆき氏 NHK 総合テレビ 「首都圏情報 ネットドリ！」にご出演

当会顧問、崎山みゆき氏は、株式会社自分楽の代表取締役としてもご活躍ですが、この度、NHK総合テレビ「首都圏情報 ネットドリ！」にご出演されました（6/8日午後7時30分～57分）。

先生が番組で提唱された内容は、シニアの世代間交流で世代間のギャップを解消しながら、相手を理解していく研修です。

昨今、日本の働くシニア人材は807万人を超え、さまざまな分野でシニア革命を起こしています。そして番組では、シニアならではの思わぬ効果は、自分の経験を語り相手の心をつかむ説得力が違うことなどが紹介されました。

事業の即戦力として会社が求める人材とマッチングした活躍の様子が、解説者からも映像にも生き生きと表現され、働く第一の目的は“健康のため”“お金”は2番目だという男性の言葉にも共感。

崎山先生の益々のご活躍を願っております。



江川武男・早坂津夜子（記）

6月 運営委員会報告（6月1日）

代表挨拶：報告および提案

- (1) 5月18日の30年度通常総会へ御出席頂きありがとうございました。
今回は役員改選期であり、新理事・監事が選任されました。7月より理事の担当も変更となりますので各部で引き継ぎ、分担を詰めて下さい。
楽学の会は23年目になり今年NPO法人設立15周年を迎えましたが、会員の皆様と協力して進めて参りたいと思います。よろしくお願ひいたします。
- (2) 5月11日、足立区地域文化課へ29年度「あだち区民大学塾」講座実施報告書を提出しました。運営方針、分野別講座の状況を報告、会員の事業に対する工夫や、開催までの様々な交渉を展開している成果を報告し、30年度は足立区関連講座を企画、提供することを説明しました。また 教育政策課の森課長、協働・協創推進課 坂田課長にも報告しました。皆様より29年度の実施に対し、謝意があり、今後の活動に励ましの言葉を頂戴しました。今年度も力を合わせて区民の皆様のニーズに応えられるような講座を開催してまいりたいと思います。
- (3) さて6月「月例会」は6月15日（金）に足立区地域文化課 濱田課長、生涯学習センター平野所長より30年度施策につき講演をいただきます。終了後 足立区地域文化課、関口係長、三ヶ島主任にも懇親会にも出席頂き、交流、懇親を深めたいと思いますので、皆様の参加をお願いします
- (4) センター受託事業については5月15日（火）にセンターへ提案し、採用決定しました。「病は気から」の脳科学 ～心と体の精巧な関係～講座です。10月の水曜日、金曜日 夜間の4回講座です。夜間講座となりますが御協力よろしくお願ひいたします。

2. 議事

- (1) 情報交換
- ・総会 5/18 開催 終了。 総会資料、名簿等をニュース発送時に、会員に送付予定
 - ・赤田講師より「大学塾講座実施報告書」のお礼八ガキ 回覧
 - ・NPO千住文化普及会「講演会」について田中(国)より報告、
「千住宿歴史ウォーク」ガイドブック発刊
- (2) 月例会開催について
- ・6月月例会 6/15 足立区の生涯学習に関する 30 年度施策
地域文化課長 濱田良光氏。 センター所長 平野昌暁氏
 - ・7月 7/13 「暑気払い」、PM6時～ レストランさくら
- (3) あだち区民大学塾（検討会議・企画会議・地域協働講座）
- ・「スケッチ講座」 応募者 32 名、受講者 28 名 行事保険 28+6 名 15,22 の両日加入
 - ・「平家物語」絵巻 応募者 41(53)名、受講者 36 名
 - ・「銭湯の変遷」 6/5・12・19 応募者 20 名 19 日 行事保険加入
 - ・「遠藤周作」 6/7・14・21 応募者 32 名
- (4) 受託事業について
- ・首都大学東京 大学院人間健康科学研究科 北 一郎教授 「病は気から」の脳科学
10/3・12・19・26 19時～20時30分、有料講座
- (5) NPO設立15周年記念事業について
- ・30年度予算計上
 - ・実行委員長小林より報告： 7/6 PM3時～ 打合せ（スケジュール表配布）
- (6) 各部局・PTからの報告および提案（省略）

**講座名：使える！役立つ！
おもてなし英会話 実用編**

日 時：8月17日～10月12日
（10月5日を除く）毎週金曜日 8日制
午後1時30分～3時
対 象：16歳以上で英検3級程度の英語力の方
会 場：足立区生涯学習センター 5階 研修室3.4
受講料：5,800円（一般）4,060円
（70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方）
定 員：25名（事前申込先着順）
講 師：ジニー・ウィルソン氏 REDWOOD(株)派遣講師
内 容：観光に来た外国人と気軽にコミュニケーションできるというですね。
すぐに使える実用的な英会話を、ネイティブの講師と楽しく学びましょう。

**講座名：車いすダンスを楽しみましょう！
（お申込不要当日直接会場へ）**

日 時：7月21日（土）午前10時～正午
対 象：小学生以上の方
会 場：足立区生涯学習センター 4階 講堂
受講料：210円（一般）150円（70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方）
110円（小・中学生）
定 員：20名（当日受付）
講 師：奥泉 共恵氏 ウェルフェアダンス上級公認トレーナー
内 容：障がいのある方も健常者の方も、一緒に楽しめる車いすダンス。「ダンスは初めて...」という方も大丈夫です。講師が最初から丁寧に教えます。

**講座名：歌声サロン 童謡唱歌を歌おう
（お申込不要当日直接会場へ）**

日 時：7月8日（日）午後2時～4時
対 象：16歳以上の方
会 場：足立区生涯学習センター 4階 講堂
参加料：500円（一律）
定 員：140名
指 導：鈴木 佑未子氏（千葉敬愛短期大学講師）
内 容：小さい頃に口ずさんだ童謡・唱歌。
ピアノ伴奏に合わせて、みんなで一緒に楽しく歌いましょう。

申し込みは、生涯学習センターへ
電話（03-5813-3730）または直接窓口へ

楽学の会 8月「月例会」は休会です。

（ボランティア活動推進部）

運営委員会

7月 2日(月) 午後3時～5時 研修室4
月例会（暑気払い）
7月13日(金) 午後6時～8時 7F/さくら
学習支援部
7月13日(金) 午後2時～4時 ワークルーム
ボランティア活動推進部
7月 6日(金) 午後2時～4時 ワークルーム
広報部
7月 5日(木) 午後2時～4時 メール会議
7月23日(月) 午後2時～4時 ワークルーム
7月25日(水) 午後2時～4時 ワークルーム
事務局
7月 3日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
7月10日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
大学塾講座検討会議
7月13日(金) 午後4時～5時半 研修室4
大学塾講座企画会議
7月 2日(月) 午後1時半～3時 研修室4
生涯学習センター 休館日
7月 9日(月)

お問い合わせ＆ご意見等

「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 江川武男 電話:090-3105-8140
E-Mail: takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp

「ホームページ」のご案内とお問合せ
<http://gakugaku.main.jp/>
広報部 神戸 明 電話:03-3606-0058
E-Mail: kambe.akira2@gmail.com

編集後記

今年も見事に咲き見ごろを迎えた西綾瀬のショウブ沼公園、まさしく足立の見どころ再発見、近隣のみならず多くの区民の方々が、目の保養に訪れていました。高台より眼下で広がる色鮮やかなショウブ沼を眺めながら頂く和菓子屋さんのどら焼きとお抹茶は何とも言えぬ今どきの風情を感じさせる一服でした。
（広報部）



（足立区しょうぶ沼公園）